

MS-DOS の時代から用いられてきた方式（現在ではベーシックディスクと呼ばれる方式）ではプライマリパーティションと拡張パーティション上の論理ドライブの関係が明確に分かれていたが、ダイナミックディスクでは両者が区別されることはなく、シンプルボリュームと呼ばれ、ハードディスクをシンプルボリュームとしてアクティブ領域にした後にフォーマットすることでディスクドライブとして利用可能となる。

シンプルボリューム

ベーシックのハードディスクと同じ扱い。特徴もない。

スパンボリューム

物理的に複数台あるハードディスクを 1 ドライブとして認識させる。ハードディスクの融合は、各ハードディスクの余りを有効に使える。2 台以上のハードディスクがないとスパンボリュームにはアップグレードできない。

ストライプボリューム

ハードディスクに分散書込することで処理速度を高めるもの。複数のユーザが1つのドライブにアクセスをする場合に有効であろう。2 台以上のハードディスクがないとストライプボリュームにはアップグレードできない。

ミラーボリューム

同時バックアップ。20GB × 2 台をミラーボリュームにアップグレードすれば、使用できる容量は 20GB で、残りの 20GB はバックアップ用として使われる。つまりハードディスクが実質書き込める容量は減るということ。2 台以上のハードディスクがないとミラーボリュームにはアップグレードできない。

RAID-5 ボリューム

ミラーボリュームのさらにセキュリティアップしたもの。本格的な RAID 構成と似ている。3 台以上のハードディスクがないと RAID-5 ボリュームにはアップグレードできない。ここまでするなら RAID カードを買って、ハード的に RAID 構築すればいいと思う。